

令和7年度 自然を活かす上質なツーリズム 人材育成・地域づくり支援事業

研修説明会・集合研修 募集要項

研修説明会の申込期間

令和7年12月25日（木）～令和8年1月6日（火）正午 必着
研修説明会（アーカイブ）の申込期間

令和7年12月25日（木）～令和8年1月16日（金）正午 必着
集合研修の申込期間

令和8年1月7日（水）～令和8年1月19日（月）

※2月に開催する集合研修の参加は、令和8年1月7日（水）13:00～15:30に開催する研修説明会（オンライン）の参加が必須となります。参加できない場合は、後日公開する、アーカイブ動画を視聴してからご応募ください。

令和7年12月

環 境 省

本研修は、環境省の主催であり、請負先である公益社団法人日本環境教育フォーラム（JEEF）及び一般社団法人日本エコツーリズム協会（JES）が運営します。

1. はじめに

環境省では、2016年から政府の「明日の日本を支える観光ビジョン」に基づき、日本の国立公園をブランド化し、国内外からの誘客を促進し、保護と利用の好循環による地域活性化を図るため、国立公園満喫プロジェクトを推進しています。

同プロジェクトの下では、「その自然には、物語がある」をブランドメッセージとして、国立公園が来訪者に約束することとして次の4点を掲げています。

1. 感動的な自然風景
2. サステナビリティへの共感
3. 自然と人々の物語を知るアクティビティ
4. 感動体験を支える施設とサービス。

これらを地域関係者と連携・協働しつつ達成していくことで、国立公園が国内外から目的地として認識され、地域の交流人口・関係人口の創出並びに来訪者体験が向上することを目指しています。また、環境省では、地域の多様な資源を最大限に活用しながら、環境・社会・経済の同時解決を目指す「地域循環共生圏」の実現を第5次環境基本計画以降進めています。地域循環共生圏の考え方を踏まえつつ、国立公園地域に限らず、様々な地域において、地域の自然資源を活用しつつ関係人口・交流人口の創出をはかり、もって地域活性化を図る取組を後押ししています。しかし、過疎化や少子高齢化、財源不足等の諸課題を抱える地域にとっては、担い手となる人材を独自に育成することは容易ではありません。

本事業は、エコツーリズム等を実践することで、関係人口・交流人口の創出をはかり、地域づくりを牽引できる地域のコーディネーター・プロデューサーとしての人材を育成するための研修を実施するものです。研修では、観光まちづくり、地域連携の促進、行政との協働等に関する講義・演習、グループワーク等を行うほか、研修参加者の希望に応じ講師の現地派遣等を行い、研修参加者のサポートをします。また、過年度に本研修に参加した地域関係者の一部については、行動計画の見直しや、円滑な推進に向け、アドバイザーとして研修講師を派遣する等のフォローアップも実施します。

本研修の趣旨を御理解いただき、多くの地域からの御応募をお待ちしております。

2. 研修目標

本事業は、研修参加者が、①「地域の自然を活かした上質なツーリズム」の考え方を理解すること、②それぞれの地域・拠点での課題を的確に把握し、効果的な取組を行動計画に落とし込み目標を設定することを研修目標としています。

将来的には、地域の様々な関係者による連携・協働が行動計画と共に進展し、地域における環境・経済・社会の課題が同時に解決されていくような、地域社会の持続的発展を目指しています。

本研修は、観光まちづくりに取組み、地域を牽引する役を担うコーディネーターやプロデューサーを目指す方を募集します。

研修事業実施目標・成果		指標
長期的成果	自然の保護と利用の好循環が実現され、地域社会が持続的に発展する。	—
中期的成果	研修を通じて作成した行動計画が進展する。 または、状況の変化に応じ改訂が行われる。	・行動計画の一部または全部に進展がみられる。 ・必要な場合、行動計画が見直される。
研修目標	①自然資源を活用した上質なツーリズムの考え方を理解し、それを実現するための鍵となる知識、視点を得る。 ②それぞれの地域・拠点での課題を的確に把握し、効果的な取組を行動計画に落とし込み目標を設定できる。	・研修参加者に自然資源を活用した観光地域づくり支援の考え方が理解される。 ・その実現に必要な「知識」「視点」が理解される。 ・研修参加者によりそれぞれの地域・拠点での効果的な取組が行動計画に落とし込まれる。

3. 研修対象者と全体スケジュール

(1) 研修対象者について

エコツーリズム等、自然資源を活かした観光振興及び地域づくりに取り組む意欲と意思を有する者

具体的には以下のような人材を想定する。

- 1) 自らの地域、自然に愛着と誇りをもって次世代に継承したいと考えている。
- 2) 自然・文化資源を生かし守りながら活用することで、持続可能な地域づくりに取り組む意欲と意思を有する。
- 3) 交流人口・関係人口創出、観光地域づくりに貢献する意欲と意思を有する。
- 4) 地域内外の関係者と協働しながら持続的に「稼げる地域」を実現したいと考えている。

※個人参加又は同一地域におけるグループ参加（2～4名程度）を想定（推奨）。

いずれも所属、業種、年齢は問わない。

【応募にあたっての留意事項】

- 2月4日（水）～6日（金）に岐阜県下呂市にて開催する集合研修は、研修の成果として作成する行動計画を地域で協働し取り組んでいく観点から、応募にあたっては、複数の組織の関係者からなる「チーム」（2～4名程度を想定）による応募を推奨しますが、難しい場合は個人での応募も可能とします。
- 集合研修は、チームで参加する場合はメンバー全員が、全日程に参加できるよう、スケジュールの調整をお願いします。
- 本研修に参加後、具体的な行動計画を定め、地域の関係者と協働しつつ自走する仕組みの構築を目指す意欲のある地域を対象とします。なお、研修終了後には、取組状況や成果などについて御報告頂き、本事業の評価に御協力いただきます。
- 募集数は上限40名程度（12地域程度）とし、上回った場合、応募フォームに基づき選考を行います。チームでの参加者、新規参加者が優先されますのでご留意ください。
- 本研修の参加に当たっては、開催の趣旨をご理解いただく観点から、研修説明会への参加が必須です（後日公開するアーカイブ視聴でも可）。

研修説明会は、令和8年1月7日（水）13:00～15:30に開催します。

URLはお申込の方に連絡します。

アーカイブ視聴の方は、後日、URLを送付します。

【研修説明会（アーカイブで視聴する場合のオンライン説明会）申込】

研修説明会（オンライン）に参加希望の場合の申込締切

令和8年1月6日（火）正午まで

研修説明会をアーカイブで視聴する場合の申込締切

令和8年1月16日（金）正午まで

申込フォーム <https://forms.gle/f9cxbs2teylgWQ3r7>



(2) 事業全体の流れについて

時期	事業の流れ	備考
1月6日（火）	① 研修説明会の申込締切	アーカイブで研修説明会を視聴する場合は、令和8年1月16日（金）まで募集し、1月19日（月）まで公開します。
1月7日（水）	② 研修説明会の実施	研修内容の紹介、ビデオ・ライブ講義を通して本研修の理解を深めます。
1月19日（月）	③ 集合研修の応募書類提出締切	応募書類に記載の内容を踏まえ、本事業での支援が効果的か、継続性、具体性、連携性、発展性、将来性などの観点により審査・選定を行います。 ※宿泊・懇親会・昼食の希望もP.10を参考に仮申込みください。
1月23日（金）	研修参加可否通知	研修参加者には研修参加のしおりをお送りします。
1月23日（金）～2月3日（水）	④ 事前自己研修	事務局から事前送付する教材（動画やテキスト等）をもとに、自己研修を行っていただきます。「事前自己研修」と「集合研修」は「一体的なカリキュラム」として構成されています。集合研修の参加までに履修してください。
2月4日（水）～6日（金）	⑤ 集合研修 (岐阜県下呂市)	集合研修では、講義やワークショップを通して、研修成果としての行動計画づくりを行います。
2月下旬 (半日程度)	⑥ 行動計画の発表 (オンライン開催)	地域ごとに作成した行動計画を発表し、研修講師や参加地域からフィードバックを得ます。
2月下旬～	⑦ 行動計画の実践	行動計画は、集合研修後から実践に入ります。 実施状況や相談事項について研修参加者からレポートを提出いただき、講師からの書面によるフィードバックを行います。（3月中）

※令和8年度以降に希望する参加者の地域へ講師を派遣し、行動計画の進捗確認、見直しにかかる助言及びフォローアップを行います（予定）。

4. 集合研修の参加にかかる経費等

(1) 研修参加費用

前述3. ④～⑦に記載の研修受講費用は無料です。

ただし、⑤集合研修（2月4日（水）～6日（金）、岐阜県下呂市にて実施）参加に当たり、下記に記載の集合場所までの往復交通費及び、その他の実費（宿泊費・食費等）については、研修参加者で御負担いただきます。ただし、その他の実費（宿泊費・食費等）につきましては下記内容にて対応が可能です。

なお、会場となっている下呂温泉水明館の宿泊は宿泊者数が限られておりますので、他宿泊施設をご自身で早めに手配いただくことも可能です。

<下呂温泉水明館 宿泊の場合のご負担額（合計36,070円（税込み）程度）>

- ・下呂温泉水明館宿泊費13,000円（相部屋）/1泊朝食付×2泊、
懇親会8,800円（食事代6,600円、飲み物代2,200円）/回×1回
昼食弁当代1,270円/個×1日分
- ・下呂温泉水明館宿泊は和室3名利用、洋室2名利用、洋室3名利用の男女別相部屋利用となります。
- ・部屋のご希望は受けられません。
- ・水明館では和室3名利用を5部屋、洋室2名利用を5部屋、洋室3名利用を3部屋確保しております、先着順の申込受付となります。
申込満員となった場合は参加者ご自身で宿泊手配をお願いいたします。
- ・シングルルーム、他宿泊施設ご希望の方は参加者ご自身で手配ください。
ビジネスホテルの多い高山、美濃太田から下呂までは列車で1時間程度です。
- ・昨今の物価上昇の兼ね合いから、今後、価格改定の可能性があります。

<参加者ご自身で宿泊を手配される場合のご負担額（合計10,070円（税込み）程度）>

- ・懇親会8,800円（食事代6,600円、飲み物代2,200円）×1回、
昼食弁当代1,270円/個×1日分
- ・各宿泊施設から研修会場である水明館までの往復交通手段、夕食、朝食は参加者側で手配をお願いします。
- ・2月5日の飛騨小坂への研修は、水明館宿泊参加者と一緒に、観察バスの乗車が可能です。

<宿泊・懇親会・昼食申し込み方法>

研修説明会に参加（もしくは研修説明会アーカイブ視聴）し、集合研修への申込が完了した方は、本募集要項別紙1（P.10）の案内に従い、令和8年1月19日（月）までに希望する内容をご登録ください（仮申込み）。

【集合研修日時・会場】

日 時：令和8年2月4日（水）～6日（金）

会 場：下呂温泉 水明館（岐阜県下呂市幸田1268）

<https://www.suimeikan.co.jp/>

J R 高山本線 下呂駅 徒歩5分

集 合：下呂温泉 水明館 2階 緑風の間

2月4日（水）13:00～14:00 集合

解 散：2月6日（金）15:00頃解散

※ 詳細は、集合研修参加者に後日お知らせします。

5. 研修講師及びカリキュラム一覧

(1) 研修講師（予定）(50音順)

氏名	所属	活動・主な専門分野	具体的な得意分野
大堀 健司	エコツアーフクミ み	エコツーリズム、インタープリテーション、環境教育	地域資源の活用、地域連携、人材育成など
金子 森	Explore Hakone	エコツーリズム、ガイド事業運営	地域資源の活用、地域連携、インバウンド対応など
鳥屋尾 健 (司会・進行)	(公財)キープ協会環境教育事業部事業部長	インターパリテーション関連	ファシリテーション、ワークショップ等の場づくり、施設運営、展示、地域連携、人材育成、団体客対応など
西村 仁志	広島修道大学 人間環境学部教授	インターパリテーション関連	特に地域連携、人材育成、社会企業(ソーシャル・ビジネス)など。
府川 尚弘	INDIGO (同) 代表	デスティネーションマーケティング戦略、インバウンド・海外市場マーケティング、地域連携推進	DMO 等を活用したマーケティング、海外市場戦略や地域連携による旅行需要の地域ビジネス化など
松田 光輝	(株)知床ネイチャーオフィス 代表取締役	ガイドィング、ガイド事業運営、地域協議体等組織	環境保全と利活用にかかる協議体の組織化と運営／ガイド事業における経営・運営・商品開発・ガイド技術等全般のアドバイス
松本 育	YNAC クラシックガイドスタッフ	ガイド事業経営、地域協議体等組織	エコツーリズムガイドの技術と担い手育成、ガイド事業運営
山崎 宏	(特非)ホールアース自然学校 代表理事	インターパリテーション、団体の運営やマネジメント	施設運営、地域連携、人材育成、団体客対応、組織マネジメントなど

(2) 岐阜県下呂市から参加される研修講師

氏名	所属	活動	具体的な活動
瀧 康洋	(一社)下呂温泉観光協会会長／下呂温泉水明館 代用取締役社長	地域協議体等組織運営	下呂市の観光まちづくり推進の中心的な役割を果たし、現在も推進役を担う。最近はデータを活用した観光街づくりに邁進。
岡戸 孝明	金山町観光協会所属	ガイド事業	下呂市金山町の裏路地巡りを資源とした「筋骨めぐり」のガイド。金山町の文化・歴史に詳しい。
熊崎 潤	(同) 216WORKS 代表	ガイド事業	下呂市小坂町の自然を資源とした「飛騨小坂の滝めぐり」ガイド。小坂町の自然保全に取り組む。
富永 哲也	下呂市役所 観光商工部 観光課 課長補佐	行政	下呂市のエコツーリズム等、観光行政を長年担う。

(3) カリキュラム（予定）

【事前学習】（視聴は必修）全体で 2.5 時間程度。

講義名	担当
講師の自己紹介	各講師（オンライン説明会と同じ動画です）
日本におけるエコツーリズム	海津ゆりえ（文教大学教授／日本エコツーリズム協会運営役員）
地域の宝探しとストーリーづくり	海津ゆりえ（文教大学教授／日本エコツーリズム協会運営役員）
インターパリテーションって何だろう？～その魅力と活用方法～	古瀬浩史：帝京科学大学教授／日本インターパリテーション協会代表理事、川嶋直：川嶋直事務所代表／日本環境教育フォーラム主席研究員
観光 SX とは？	山下真輝（（株）JTB 総合研究所）

【集合研修】

2月4日～6日、岐阜県下呂市にて実施します。

1日目（2月4日）

講義名	担当
エコツーリズム全体構想を使った下呂温泉の街づくり～下呂温泉の事例～	滝康洋（下呂温泉観光協会会长、水明館社長）
下呂が取り組む資源の保全と活用（自然）	下呂温泉のガイド or 関係者
下呂が取り組む資源の保全と活用（文化・歴史）	
持続可能な自然資源を活かすルール作り（知床の野生生物の事例）	松田光輝（知床ネイチャーオフィス）
持続可能な自然資源を活かす地域づくり（屋久島の事例）	松本毅（YNAC クラシックガイド）

2日目（2月5日）

講義名	担当
ガイドツアー（フィールドワーク）	下呂温泉のガイド（現地へのバス移動を含む）
地域のコーディネート（1）	大堀健司（エコツアーふくみみ）
地域のコーディネート（2）	金子森（Explore Hakone）
デステイネーションマーケティング	府川尚弘（INDIGO）
旅行商品の売込、持続可能な経営	松田光輝（知床ネイチャーオフィス）

観光まちづくりにおける行政と民間の連携～下呂市における行政連携について～	下呂市役所観光課（仮）
選択科目	
1) 行政の巻き込み方（DMOとの連携について）	下呂市役所観光課・府川・松本
2) 地域資源を観光に活かす	大堀・金子・（水谷（日本エコツーリズム協会））
3) 観光客を迎える体制づくり、人材育成	松田・山崎

3日目（2月6日）

講義名	担当
自然資源を活かした新規事業の作り方	山崎宏（ホールアース自然学校）
環境・社会・経済の「好循環」を生み出す①～あるものを活かす～	西村仁志（広島修道大学）
環境・社会・経済の「好循環」を生み出す②～多様な主体をつなぐ～	西村仁志（広島修道大学）
行動計画づくり	各講師

【事前又は事後学習】（視聴は任意）全体で2時間程度（予定）。

講義名	担当
聞く技術とまとめる技術	青木将幸（青木将幸ファシリテーター事務所）
インバウンドを取り入れた地域づくり	古屋絢子（通訳案内士/観光ラボ）
インタープリテーション全体計画を取り入れた地域の巻き込み	(一社) 雲仙観光局

※募集開始時点での予定につき講師・講義タイトルは変更となる場合があります。

6. 応募方法について

(1) 研修説明会（アーカイブ含む）の応募について

- 環境省ホームページ、本研修事務局を担う日本環境教育フォーラム又は日本エコツーリズム協会のホームページに掲載の応募フォームからご応募ください。研修説明会は、個人の参加で構いません。
- 応募フォームは、研修説明会の開催後に、メールで送信します。チームで応募の際は、構成員で話し合いの上、記載願います。
チームで応募する際の構成員は、観光協会や DMO、行政職員や地域おこし協力隊、地域のガイドやインタープリター、エコツアー事業者、施設管理者等、集合研修後、一緒に地域を盛り上げていくことを考えている方を加えてください。
- 提出された応募書類は本事業に関する目的以外には使用しません。お預かりした個人情報は、「環境省所管事業分野における個人情報の保護に関するガイドライン」に従い管理します。なお、応募書類は返却しません。
- 応募書類は日本語で記入してください。なお、応募フォームの様式は変更せずに記入してください（記載内容に応じて、枠を広げることは可とします。）。

(2) 研修説明会の応募締切 令和8年1月6日（火）正午（必着） ※P.3

（説明会に参加できない方向け）アーカイブの研修説明会の申込締切

令和8年1月16日（金）正午（必着） ※P.3

集合研修参加の応募書類提出期限 令和8年1月19日（月）（必着） ※別書類
宿泊・懇親会・昼食仮申込み期限 令和8年1月19日（月）（必着） ※P.10

(3) 応募にあたっての留意点

- 応募に当たっては、事業主旨に鑑み今後の連携可能性、情報共有の観点から、所管の自治体の観光振興、地域振興担当課、必要に応じ自然環境保全担当課等へ御一報いただくをご検討ください。
- 本事業は環境省主催です。応募する地域が国立公園内又は隣接する場合は、その国立公園を所管する環境省の出先機関（地方環境事務所、自然環境事務所、国立公園管理事務所、自然保護官事務所等）にも、事前に御一報いただくをご検討ください（今後の情報共有、連携の可能性を広げるため）。

【応募先・問合せ・事務局】

公益社団法人日本環境教育フォーラム （担当：小堀） E-mail : kobori@jeef.or.jp

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里5-38-5 日能研ビル1階

電話：03-5834-2897 ホームページ：<https://www.jeef.or.jp/>

※お問合せの際は、できる限り E-mail をご利用ください。

【事務局】

一般社団法人日本エコツーリズム協会 （担当：佐藤） E-mail : sato@ecotourism.gr.jp

〒141-0021 東京都品川区上大崎2-24-9 アイケイビル3F

電話：03-5437-3080 ホームページ：<https://ecotourism.gr.jp>

【環境省】 自然環境局 国立公園課 国立公園利用推進室（担当：伊東・大谷）

電話：03-5521-8271（直通）

令和7年度 自然を活かす上質なツーリズム人材育成・地域づくり支援事業
 2月4日（水）～2月6日（金）現地集合研修（岐阜県下呂市）
 1.宿泊 2.懇親会（2月4日） 3.昼食（2月6日）のご案内

募集要項「集合研修の参加にかかる経費等」にも記載の通り、集合場所までの往復交通費及びその他実費（宿泊費・食費等）については、研修参加者で負担並びに手配をいただきます。下記につきましては、会場となります「下呂温泉 水明館」への手配が可能ですのでご希望の方はご利用ください。

1.宿泊について 「下呂温泉水明館」の宿泊申込が以下の条件にて可能です。

宿泊代 1泊朝食 おひとり様 13,000円（税込）×2泊 = 26,000円（税込）

1泊のみのご利用は承れません。

参加者同士の男女別相部屋となります。

和室3名利用×5室、洋室2名利用×5室、洋室3名利用×3室を準備しております、先着申込順となります。

※ シングル希望、申込満員の場合には個人にて下呂温泉周辺の宿泊施設を手配ください。

2.懇親会について 参加者の交流を深めるため、なるべくお申込ください。

2月4日（水）研修修了後に講師を交えた懇親会を開催いたします。

懇親会は立食形式、代金は お一人様 8,800円（飲み物込・税込）となります。

食事だけ、飲み物だけのご要望は承れません。

3.昼食について 研修スケジュールの都合上、なるべくお申込ください。

2月6日の昼食は研修会場にて、お弁当（代金は おひとり様 1,270円（お茶付・税込））の申込が可能です。お弁当のため、食物アレルギー対応はいたしかねます。

※2月5日の昼食はガイドツアー時に含まれておりますので申込は不要です。

4.申込条件・支払について

研修説明会の参加もしくは研修説明会アーカイブ視聴の上、集合研修への申込が完了していることが必須条件となります。応募総数が募集数40名程度（12地域程度）を上回った場合選考を行う場合があるため、申込時は仮申込とし、研修参加が正式決定された場合に本申込となります。受講決定通知が届かなかった方については自動キャンセルとなります。なお、支払いは水明館に直接お支払いいただきます。

5.申込方法・締切について

申込は下記URL、右記QRコードから申込者1名ごとにお申込みください。

URL <https://forms.gle/e8EwjaP4W88VcxRT8>

申込締切 令和8年1月19日（月）



6.研修参加決定後の内容変更・キャンセルについて

研修参加決定通知受領後の申込内容変更ならびにキャンセルは、以下の問合せ先メールアドレスに、変更・キャンセル内容をお送りください。

研修参加決定通知受領後のキャンセル料は以下の通りです

●宿泊キャンセル料

1月30日以降～2月2日まで	3,450円
----------------	--------

2月3日以降	5,750円
--------	--------

2月4日当日	19,500円
--------	---------

●2月4日 懇親会キャンセル料

2月3日以降	8,800円
--------	--------

●2月6日 昼食（弁当）代

2月3日以降	1,270円
--------	--------

宿泊・懇親会・昼食に関する問い合わせ先：

人材育成・地域づくり現地研修担当（日本エコツーリズム協会内）
〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-24-9 アイケイビル 3 F
TEL 03-5437-3080 （平日 10:00～18:00）
担当 佐藤 MAIL : sato@ecotourism.gr.jp

よくある質問

Q：主な活動フィールドが国立公園ではないのですが応募は可能でしょうか？地域ではエコツーリズムとは銘打ってなく、例えばグリーン・ツーリズムやアドベンチャートラベルに取り組んでいるのですが、応募は可能でしょうか？

A：いずれも可能です。自然資源（里地・里山などの自然を含む）を活用した地域振興、観光振興を目指す地域であれば、どこでも対象となります。

Q：募集対象となる「地域」とは、どのような範囲でしょうか？

A：「県境を越えた自然公園全体」～「ひとつの集落」まで、「地域」と呼べる単位とします。

例 「日高山脈襟裳十勝国立公園」地域、「新ひだか町静内」地域、など。

なお、過去の参加地域一覧は別紙3を参照ください。

Q：過去に参加したことがあります、もう一度応募してもいいですか？

A：可能ですが、多くの方に参加いただきたい趣旨から、応募地域・応募者多数の場合は、初めて参加する地域・応募者を優先することがあります。

Q：自治体の観光課の職員です。チームで参加したいガイド等が10名ほどいるのですが参加可能でしょうか？

A：会場の都合及び公平性の観点から、原則としてスタッフ・事業者側の方+サポート側の方=合計2～4名のチームもしくは代表者個人で応募してください。

Q：一部日程に参加できないメンバーがいますが、応募可能ですか？

A：2月4日（水）～6日（金）に開催する集合研修は、全日程への全員参加を要件としています。

過年度 参加地域一覧

番号	都道府県	地域名、あるいは団体や施設名	参加年度
1	北海道	国立公園支笏湖運営協議会	H30(2018)
2	北海道	北海道南十勝町村(中札内村、更別村、広尾町、大樹町、主に大樹町)	H30(2018)
3	北海道	七飯大沼国際観光コンベンション協会	R2(2020)
4	北海道	北海道美幌町(美幌地区三町広域観光協議会) (阿寒摩周国立公園)	R3(2021)
5	北海道	北海道様似郡様似町	R4(2022)
6	北海道	中核都市函館生活・観光圏(Donan自然学校プロジェクト)	R5(2023)
7	北海道	小樽観光協会(一般社団法人 小樽観光協会)	R6(2024)
8	岩手県	岩手県陸前高田市	R2(2020)
9	岩手県	岩手県大槌町	R3(2021)
10	岩手県	八幡平市、十和田八幡平国立公園(株式会社八幡平DMO)	R6(2024)
11	宮城県	宮城県石巻市及び南三陸町	H29(2017)
12	宮城県	栗駒高原ジオパーク推進協議会	R2(2020)
13	宮城県	みちのく潮風トレイル・名取トレイルセンター	R3(2021)
14	宮城県	宮城県七ヶ浜町	R3(2021)
15	宮城県	宮城県、大崎市、鳴子温泉地域(鳴子温泉郷国民保養温泉、栗駒国定公園)	R4(2022)
16	秋田県	白神山地(秋田県藤里町)	H29(2017)
17	山形県	山形県大江町	H29(2017)
18	山形県	山形県飯豊町(磐梯朝日国立公園(飯豊町南部))	R3(2021)
19	山形県	酒田市・鳥海国定公園エリア(一般財団法人酒田DMO)	R5(2023)
20	山形県	小国町(特定非営利活動法人 飯豊朝日を愛する会)	R5(2023)
21	山形県	磐梯朝日国立公園 出羽三山地域(一般財団法人休暇村協会 休暇村・庄内羽黒)	R6(2024)
22	福島県	北塙原村商工観光課	R2(2020)
23	福島県	福島県耶麻郡北塙原村	R4(2022)
24	福島県・群馬県・新潟県	尾瀬国立公園	R2(2020)
25	栃木県	栃木県日光市湯元奥日光	H30(2018)
26	栃木県	那須塩原市(一般社団法人那須塩原市観光局)	R5(2023)
27	群馬県	尾瀬国立公園	H31/R1(2019)
28	埼玉県	埼玉県飯能市(一般社団法人奥むさし飯能観光協会)	R5(2023)
29	神奈川県	箱根ジオパーク	H31/R1(2019)
30	新潟県	新潟県妙高市	H29(2017)
31	新潟県	上越市くわどり市民の森(新潟県)	R3(2021)
32	新潟県	新潟県佐渡市(トキ交流会館)	R4(2022)

33	富山県	富山県南砺市	H29(2017)
34	富山県	立山エコツーリズム研究会	H29(2017)
35	富山県	立山黒部	H31/R1(2019)
36	石川県	石川県白山市白峰	H30(2018)
37	石川県	中能登町石動山	H31/R1(2019)
38	石川県	石川県志賀町熊野地区	R2 (2020)
39	石川県	石川県志賀町（能登半島国定公園能登金剛 嶽門、牛下地区・福浦地区・熊野地区）	R3(2021)
40	山梨県	山梨県北都留郡小菅村	H29(2017)
41	山梨県	山梨県南アルプス市芹安地域	H29(2017)
42	山梨県	山梨県富士吉田市	H30(2018)
43	山梨県	みのぶ自然の里	R2(2020)
44	山梨県	山梨県北杜市高根町清里	R4(2022)
45	長野県	長野県松川町	H29(2017)
46	長野県	長野県塩尻市	H29(2017)
47	長野県	霧ヶ峰高原	H30(2018)
48	長野県	NPO 浅間山麓国際自然学校	H30(2018)
49	長野県	ライジングフィールド軽井沢	H31/R1(2019)
50	長野県	長野県松本市（乗鞍）	H31/R1(2019)
51	長野県	さわんど温泉観光組合	R2(2020)
52	長野県	長野県原村	R2(2020)
53	長野県	長野県白馬村	R2(2020)
54	長野県	長野県松本市奈川（株式会社ふるさと奈川）	R5(2023)
55	長野県	北佐久郡御代田町 面替地域（面替地域里山整備利用協議会）	R6 (2024)
56	岐阜県	岐阜県大野郡白川村	H29(2017)
57	岐阜県	岐阜県高山市国府町	R4(2022)
58	岐阜県	岐阜県高山市朝日町（飛騨あさひ観光協会）	R5(2023)
59	静岡県	静岡県沼津市・伊豆の国市	H31/R1(2019)
60	静岡県	伊豆ジオスクール設立準備委員会（静岡県）	R3(2021)
61	愛知県	長久手市もりの学舎（愛・地球博記念公園内）	H31/R1(2019)
62	三重県	三重県熊野市（吉野熊野国立公園）	R3(2021)
63	三重県	多気郡明和町（一般社団法人明和観光商社）	R6 (2024)
64	滋賀県	滋賀県米原市	H31/R1(2019)
65	滋賀県	滋賀県長浜市	R4(2022)
66	京都府	京都丹波高原国定公園	H30(2018)
67	京都府	京都市西京区 大原野地域（COS KYOTO 株式会社）	R6 (2024)
68	兵庫県	神戸市 北区・西区（神戸市 地域協働局 地域協働課）	R6 (2024)
69	和歌山県	和歌山県上富田町および南和歌山地域	H30(2018)
70	和歌山県	和歌山県和歌山市加太	H31/R1(2019)

71	和歌山県	和歌山県田辺市龍神村（高野龍神国定公園）	R3(2021)
72	和歌山県	古座川町観光協会（古座川町観光協会）	R6 (2024)
73	鳥取県	鳥取県日南町	H29(2017)
74	鳥取県	山陰海岸国立公園鳥取砂丘	H31/R1(2019)
75	鳥取県	日野郡江府 大山隠岐国立公園 大山蒜山地域（江府町役場 総務課 奥大山振興室）	R6 (2024)
76	島根県	島根県出雲市	R2(2020)
77	岡山県	蒜山高原（大山隠岐国立公園 岡山県真庭市）	R4(2022)
78	広島県	広島県安芸太田町 三段峡	H29(2017)
79	広島県	広島県安芸太田町	H30(2018)
80	広島県	国民宿舎野呂高原ロッジ	H31/R1(2019)
81	広島県	広島県三次市	R2(2020)
82	広島県	廿日市市宮島町（宮島きもの時間）	R6 (2024)
83	香川県	香川県高松市	H29(2017)
84	香川県	香川県	H29(2017)
85	香川県	香川県三豊市栗島	R2(2020)
86	愛媛県	愛媛県石鎚周辺地域	H29(2017)
87	愛媛県	愛媛県八幡浜市	R2(2020)
88	愛媛県	愛媛県四国中央市新宮町	R4(2022)
89	高知県	土佐清水市	H30(2018)
90	高知県	高知県黒潮町	R2(2020)
91	福岡県	福岡県みやこ町「こもりくの森」	H29(2017)
92	福岡県	福岡県北九州市小倉南区平尾台（北九州国定公園）	R3(2021)
93	長崎県	自然公園財団（雲仙）	R2(2020)
94	長崎県	長崎県対馬市	R2(2020)
95	長崎県	五島市ジオパーク推進班（長崎県）	R3(2021)
96	長崎県	長崎県五島市玉之浦（西海国立公園）	R3(2021)
97	長崎県	長崎県雲仙市（一般社団法人雲仙観光局）	R5(2023)
98	熊本県	阿蘇くじゅう国立公園（熊本県）	H29(2017)
99	熊本県	公益財団法人阿蘇火山博物館	R2(2020)
100	熊本県	熊本県天草市（合同会社シマノタネ）	R5(2023)
101	大分県	阿蘇くじゅう国立公園（大分県）	H29(2017)
102	宮崎県	宮崎県 えびの高原	H29(2017)
103	宮崎県・鹿児島県	霧島ジオパーク／霧島錦江湾国立公園（宮崎県都城市、小林市、えびの市、高原町、鹿児島県曾於市、霧島市、湧水町）	R4(2022)
104	鹿児島県	鹿児島県鹿児島市 桜島地域	H29(2017)
105	鹿児島県	薩摩川内市 国定公園甑島	H29(2017)
106	鹿児島県	奄美自然観察の森	H31/R1(2019)
107	鹿児島県	鹿児島県大島郡大和村	H31/R1(2019)

108	鹿児島県	屋久島自然保護官事務所	R2(2020)
109	鹿児島県	かごしま環境未来財団	R3(2021)
110	鹿児島県	くすの木自然館（重富海岸自然ふれあい館なぎさミュージアム）	R4(2022)
111	鹿児島県	鹿児島市グリーン・ツーリズム推進協議会（鹿児島大学農学部・唐湊の森）	R4(2022)
112	鹿児島県	鹿児島県徳之島町	R4(2022)
113	鹿児島県	鹿児島県出水市（出水市役所）	R5(2023)
114	鹿児島県	鹿児島県出水市（出水市役所 ラムサール推進室）	R6 (2024)
115	沖縄県	沖縄県座間味村	H29(2017)
116	沖縄県	沖縄県国頭村・大宜味村・東村、やんばる国立公園	H30(2018)
117	沖縄県	やんばる自然保護官事務所	R2(2020)
118	沖縄県	沖縄県八重山郡竹富町古見（西表島、西表野生生物保護センター）	R4(2022)
119	沖縄県	沖縄県石垣市（石垣市役所）	R5(2023)